

葡萄の香



日本基督教団
酒田教会

〒998-0037

酒田市日吉町
1-1-7

TEL 0234-22-1224

牧師 塚本恭子

「復活の主イエス」

牧師 塚本恭子

聖書

イエスが自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

ルカによる福音書24章36

今、私たちは復活日を与えられました。その日にふさわしい季節、厳しい冬からすべてのものが息吹く春を迎えています。酒田教会も二年間の無牧の時を終えて新しい歩みを始めています。主の復活は、私たちの信仰を確かなものとし、主の御前に新しい一歩、明日に向かって今日を生きることで、す。人生は、過去と未来という流れの中で、今日があるのですが、教会も歴史があつて、その過去の歩みがあつたからこそ新しい今、現在があるのです。であるから私たちは過去に固執することなく、過去から学び、悔い改めてキリストと共にこれからの日を新

しく生きることが大切なのです。

私たちが地震・津波や原発事故と様々な艱難に合っています。その現実があることは人間が生きることで人間の存在そのものなのです。しかし、神は私たちに救いを示された。その救いとは、神の霊が私たちに注がれるという救いが起きたことでした。すべてのものに「わが霊を注ぐ」と神は、旧約聖書をおして私たちに約束されたそのことの成就でした。

主イエスの復活は、主イエスが十字架に架かった三日後に起きたのです。ローマの総督ピラトによつて主イエスが十字架に架けられ殺された後、弟子たちはエルサレムのある家の二階の部屋に集まって、震え、脅えていました。弟子たちが恐れていたのは、一つは主を裏切ったことで、生前に主イエスが「人の子は殺されて復活すると何度とも言っていたのを思い、何かが起きるだろう恐れや不安をもっていたのです。もしかししたら霊の仕返しを恐れたのではないか。もう一つは主イエスと一緒に活動をしてい

たので、ユダヤ人の指導者が自分たちを捕えに来ることでした。それで震え、脅え、肩を寄せ合つて隠れ屋に潜んでいたのです。よそ者が入つてこないように、仲間以外に入れないように、ドアには鍵をかけ締め切つて隠れていたのです。

福音書は復活の主のことを、「幻のような主イエス」であつたとか、「ラボニ、先生」と、はつきりと「人間の姿」をした主イエスであるとか、「光輝く天的な姿」であつたとか。弟子たちがそれぞれ体験した復活の主のことを証言しています。彼らの中には、「そんなことあるはずが無い」「自分で確かめなければ、信じない」と疑いをもつ弟子トマスもいたのです。今、弟子たちは「復活の主イエス」を捉えきれずに、ひそひそと自分の体験を語り合い、恐れ、脅え、不安な気持になつていたので、

そのような弟子たちの隠れ家に、驚きの事実、復活された主イエスが顕れたのです。復活の主は彼らの真ん中に立つて、シャローム「あなた方に平和（平安）があるように」と挨拶を言われたのです。ヘブル語の「シャローム」、ギリシャ語の「エイレーネー」ですが、彼らはこの突然の主の声に驚いたのです。密室になつてはいるはずなのに、人間の常識では考えられない出来事。主イエスが幽霊か亡霊のように現れたのですか

ら、そこにいた弟子たち一同は震え上がったのです。その弟子たちを見て主イエスは、「なぜ、うるたえているのか。どうして心に疑いを起すのか」と。「うるたえる」とは「疑う」という意味で、この言葉は「あなた方はどうして、復活した私に疑いをもつのか」ということで、つまり、弟子たちは、現実の中で、主イエスが幽霊のように、亡霊のように、目の前に現れていることに、うるたえたのです。復活の主はその弟子たちに、その手と足を見せて、すなわち十字架の釘跡を見せて「まさしくわたした」と言われます。「それはわたしたである」。それは怪しい幽霊でも、亡霊でもない。「わたしは存在である」という言葉です。それは弟子たちの交わりの中に復活の主が存在するという神の御臨在を意味する言葉であり、復活の主は、あのガリラヤであなたたちに教え、奇跡の業を行い、悪霊を追い出した、あなたたちのラビ、主イエスである。あの十字架に架かった主イエスが今あなたたちの真ん中にある存在であると語っているのです。今、弟子たち全員がはつきりと認識できるように、復活の主はその存在を彼らに示されたのです。40節に「イエスは手と足をお見せになった」とあるが、主イエスの手と足の釘あとは「十字架のしるし」で象徴であり、「神と私達との新しい関係の

しるし」が十字架の意味です。主イエスの十字架は私たちの罪の贖いという、主イエスの死の犠牲による代償のしるしで、それが主イエスの手の釘痕でした。

主の復活の体は、この私たちの時間と空間から全く違った世界の出来事で、私たちの世界とは次元の違いがあったのです。神は、神の被造物であるこの自然に束縛されず、全く自由な超越された存在であったのです。だから神の存在は、私たちのこの世の時間と空間からは理解できないことが起きた、奇跡、驚くべき出来事として表現されて「初めから在った」方であると。使徒パウロは分かりやすく復活の体について私たちに説明をしています。コリントの信徒への手紙一15章35節から、復活の体について語っているので参照。

今日の御言葉、「わたしがあなた方の真ん中に在る」と復活の主が語る御言葉は、あの十字架にかかった復活の主イエスがあなた方の真ん中に在る、すなわち私たちのそれぞれの間に「主の霊がある」という意味で、主の霊はそれぞれの心に宿るが、キリストにある者が二人三人集まった時は、その中に「わたしは在る」と言われるのです。であるので、私たちキリスト者が集まった時、「キリスト」が私たちのこの中心に在るのです。これが「主とともに在る」と言わ

れていることで、主との交わり、私たちは主と結ばれていることです。

主イエスの弟子たちは、「肉によるラビ（先生）である主イエスの弟子」ではなく、新しく生まれたキリストの霊、霊の体をもつ「復活の主」の弟子、キリストの弟子になったのであります。そして、これがエクレシアと呼ばれるキリストの霊の支配による教会の始まりです。今、私たちの礼拝の「中心にキリストが立つて」いるのです。この「真ん中」に存在するキリストに、ただ神のみをひれ伏し礼拝する時が与えられているのです。復活の主は、私たちに、震え、脅え、怖がって、じっとしていないで、主の栄光のもとに生き生きと今日の日を生きたことを勧めています。復活日（イースター）を迎えて主に向かって喜び歌おうではありませんか。（復活日の説教要約）

(2)

年間聖句

わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

（コリントI 3章9節）

このみ言葉は、二つの点が強調されています。一つは、教会員は、神の奉仕者である、

すなわち神の同労者であること。私たちはかつての使徒たちや預言者たちと同じような神の同労者になり得るのです。私たちは現代において、神のみ業である宣教活動、救いの業が託されて、神と共に働く者です。であるから教会員・長老は自分の信仰のために教会があるのではなく、神のために働く同労者として教会に集まるのです。ですから、神の同労者はその分に応じて奉仕をし、それによって神からの恩寵が与えられるのです。私たちは教会という神の畑に植えられた一粒の種に肥料をやり、水を注ぎ、害虫から守り実を結ぶまで育てる仕事に携わるのです。その仕事が教会員・長老の奉仕であり、教会の奉仕するものは神への奉仕であって、私たちは神に依存し、信仰を实践することを神が望まれるのです。二つは、教会は神の体として一致して奉仕する神の建物である。神はご自分が頭となって建てられた教会に、牧師、教師、長老、監事などを置いて、それぞれの役割を持たせて教会を形成させているのです。それぞれのタラントの異なった人たちが協力して神の国を創り上げるために、神の意志が働いているのです。私たちにそれぞれの勤めが神から委託されているのです。それが神の恩寵のもとに教会生活することです。「建てる」とは神の教会であるキリストの体を築くことで、教会形成です。教会は神の霊により、私たちが

奉仕するため秩序をつけて、その責務を置いている目に見えない「エクレシア」です。しかし、神の同労者である私たちは、その責務と全権が神からくることを知っていないと教会を形成することが困難なものになってしまふ。キリストの霊がいつも私たちと共にいてくださることを、確信をもって神の豊かな恩寵のもと酒田教会形成のために一致して奉仕をしましょう。
(牧師 塚本恭子)

☆ふたば園紹介

宗教法人「酒田教会」には学校法人「酒田双葉幼稚園」と「酒田双葉託児園」が一緒に集まっています。幼稚園と保育園（無認可）は、もともとは宗教法人でしたが、2年前から、新庄にある日本基督教団の新庄教会の幼稚園の分校になり学校法人になりました。現在塚本牧師は幼稚園の園長を兼任し、保育園は斎藤りゑ園長が就任しています。先生方が非常勤の方も含めて10人で、園長事務長、栄養士の方など6人。保育園・幼稚園・預かり保育など、園は朝の7時から午後の7時までの保育で、狭い園舎・園庭で私が経験したことのない世界が広がっています。どこまで関わるものか混乱していますが、園児が可愛く「園長先生」と呼んで駆け寄ってきていま

す。その声に安らぎを感じつつも、行事も宮城学院の時と同じように毎日が忙しいです。主日礼拝が終わった後の月曜日の園の礼拝から始まり、県と市の仕事、酒田幼稚園連合会と私学幼稚園連合会、キリスト教保育連合会とふたば園の父母会など。これから幼稚園の教育実習生が3週間の予定で来ます。この仕事が牧師にあったとは思いませんでした。

☆先生方紹介

酒田双葉幼稚園主任

柿崎育子先生

子供の頃は、桜が咲く季節が丁度私の誕生日の当たりだったので、花見をしながら祝ってもらった記憶が残っています。今年も私の誕生日に合わせたかのように、酒田の桜が満開になりました。なぜか、私は桜を見るとすべてが幸せな気分になります。そのような幸せな気分が全員がなれるような幼稚園にしていきたいと思えます。

酒田双葉保育園主任

富樫峰子先生

去年まで幼稚園の主任でしたが、今年には保育園の仕事をしています。塚本園長から「主任。主任」と呼ばれて仕事に張り切っています。認定子ども園として、幼稚園と託児園がスムーズな流れができあがるように、神さまの恵みと守りがありますように。そして教会員の方々の支えと励ましを頂いて仕事に携わっていただけると願っています。只今、私の楽しみは週に1回エアロビクスに汗を流すことで、夢中になっています。

俳句

酒田教会長老 奥山明子

海迄の散歩ゆるゆる日永かな

日溜まりに肩を寄せ令ふ花董

初蝶の低く小川を越え行けり

大振りの西王母てふ椿咲く

工場の煙溶け令ふ春夕焼

牧師館便り

皆様お久しぶりです。酒田教会牧師の塚本

恭子です。名取教会の牧師を6年務めて、皆様の祈りと献金に支えられたこと感謝いたします。音沙汰ないと叱られそうですが、名取教会は荒井伊作牧師に就任してもらい、私の家も地震の被害もあって一年無任所の牧師として働きました。その間25回も説教の奉仕があつたので、満たされていたのですが、教区総会議長にどうしても依頼されて、この酒田市にある歴史が113年と言う古い木造建ての酒田教会（もと基督教会）に4月から主任担任教師として赴任しています。乳がんの手術後でもあり、糖尿病でもあるので、それに年齢も今年の干支は私の生まれ年です。で、あまり無理はできません。けれども毎日がハードです。学校法人として独立はしているのですが、なぜか牧師が園長を兼ねることになっていられるらしいので、毎日園児と一緒にです。頭に乗って「数と遊ぼう」という授業まで始めて友人から健康の厳重注意を受けています。第4主日礼拝は午後2時から鶴岡教会の説教担当です。

一番困るのは、季節が合わないことです。雨も雪も風にもって横から降るのでどうしようもないです。傘は役に立ちません。からりとした天気はなく毎日どんよりしています。

二番目に困るのは、牧師館がないことです。

どこの教会でも、牧師館があるのにこの教会は、託児園の二階の奥に部屋があるだけで、園と分離してなく牧師の家族は住めない状態です。リホームしたら住めると信じていたのですがなかなか難しいです。私の犬（ノンノン）はアパートに長時間置くことが出来なく、名取の知人にあずけています。どうしたらいいのかエリミヤの如く分岐点に立つて遙かなる道を眺めています。御祈りをお願いします。塚本信の時は本当にありがとうございました。おかげさまで、洋子は日本基督教団鴻巣教会の主任担任牧師として働いています。幼稚園もあつて園長として頑張っています。

この「葡萄酒の香」の名づけ親は、私の恩師大沼隆先生です。主イエスが「わたしは葡萄酒の木、あなたがたはその枝である」ヨハネ15章と「自分を香りのよい供え物として神に献げなさい」エフェソ5章を合わせて、酒田教会の牧師になる私に送られた言葉です。酒田という言葉の意味も加えて、酒田教会が主のエクレシアとして強い風のような聖霊が葡萄酒の木を成長させ、その実を豊かに実らせることを恩師は祈っていたようです。この「葡萄酒の香」を送りますが、しばらくの間お読み頂いたら幸せと思います。（塚本恭子）

編集後記

お便り下さい。お待ちしております。